

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2025/9/14

団体名		びんご日本語多言語サポートセンター		活動タイトル		外国につながる子どものためのプレスクール事業と父ちゃん母ちゃん応援事業			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■活動風景			
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		日本の学校制度や学校文化の知識が乏しい家庭であっても、安心して産み育て地域社会を構成する市民として力を発揮できるまちづくりが求められている。日本語が脆弱な児童であっても、学習する権利が保障されるために、まずは義務教育の場が彼らにとって信頼できる居場所となる必要がある。学校教育・社会教育の現場とつながることにより、小学校入学前のサポートや保護者のエンパワーメントをサポートしたり、支援者の層を拡大することで多文化共生社会の実現をめざす。				プレスクールでの外国人スタッフによる絵本の読み聞かせ 			
●団体の社会的役割(ミッション)		当団体は、教育・保育関係者、外国系市民等で構成していることから、他団体よりもこの課題を把握し、当事者の声を得やすい環境にある。外国系市民が住み続けられるまちづくりのために、行政の多文化共生部門からも業務を受託するのみでなく、行政に進言をするなど行政と協働の活動を展開している。これまでも受託事業報告として課題や改善策を提言しており、行政の施策改善の実績もある。							
●団体の活動基盤		●人的資源：多言語・多文化背景のある市民、成長期にある子どもの言語の習得過程等について理解しようとする努力ができる人を育成する。 ●物的資源：事務所スペースを確保する。 ●活動資金：事業実施のための謝金等や事務所運営のためのランニングコスト（事務所借上げ料、光熱・水道費、租税等々）の財源を確保する。 ●情報：日本語非母語話者である保護者の子育てに関する困りごとのニーズ情報や小学校入学前の諸準備に関して各学校が配付する資料の多言語情報を収集する。							
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			「学校給食をハラルで作ってみよう」への参加者集合写真 			
●プレスクールの実施 小学校入学前の外国人児童6名が参加して、指導者3名とサポーター4名（うち外国人スタッフ2名）で企画運営した。 ●高校進路ガイダンスの実施 中学生がいる外国人家族(7世帯)が親子で参加し、日本の学校制度について学び、進路に関する情報を提供した。あわせて、今年度高校進学を果たした先輩2名による体験談を話してもらう時間を設け、進学イメージを持ってもらった。 ●エンパワーメント事業の実施 （福山城・鞆の浦まち歩き交流会、学校給食をハラルで作ってみよう） グループに分かれて目的をもってまち歩きをする交流会やムスリムの保護者に子どもの学校での食について興味を持ってもらう機会を作り、参加者同士がコミュニケーションをとれるように工夫することで地元で子育てをする保護者の孤立化をふせぐエンパワーメント事業とした。			●プレスクールの実施 ①開催 9回実施(申請時は10回で計画) ②目標アウトカム：語彙調査100語のうち7割程度を理解する⇒ 5名中4名達成 出席率7割以上⇒全員が78%以上の参加（+1名が途中で体験入室1回のみ） ●高校進路ガイダンスの実施 ①開催 1回実施 ②目標アウトカム：10世帯程度の参加⇒7世帯の参加 ●エンパワーメント事業の実施 ①開催 2回実施 ②目標アウトカム：10名以上の参加⇒計18世帯の参加 ●活動基盤の強化 ①視察調査、企画会議・振り返り会議等を各事業ごとに開催 ②自発的に活動できる支援スタッフ：12名、企画会議や振り返りでも活発に意見がでるようになり、主体的に分担業務を推進するようになった。						
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題			■活動成果のアピールポイント（自由記入）			
●各事業において、当日参加者へのアンケート調査をおこなったり、スタッフの感想を含めて報告書にまとめるなどして、成果と課題が共有できるようになった。 ●アンケート調査で分かった参加者のニーズや問題意識を把握し、次回からの運営の土台を作ることができた。 ●外部からの講師にも関わっていただいたことにより、地域の多文化共生のまちづくりの意識向上に寄与することができた。(学校給食関係者、栄養士、農業関係者など) ●運営を効率的に実施するために、日本人スタッフが外国人スタッフをサポートする形で役割分担をしたことで、外国人スタッフが業務に当たる不安を軽減することができた。 ●視察調査や企画会議をする中で、スタッフがスムーズに分担業務にあたることができ、ノウハウを蓄積できた。			当団体のビジョンとミッションにそって、今年度は「プレスクール」「高校進路ガイダンス」「エンパワーメント事業」を実施したが、次の課題が明らかになった。 「プレスクール」では、参加者の呼びかけが就学前施設以外に十分にいきわたっていないことや、市内1か所の実施だけだったこともあり、参加できる児童に限られる結果となった。「高校進路ガイダンス」では教育委員会から後援はいただけたが当日のオプザーブがなかったため、参加者からの深い疑問には答えることができず在籍校につなげることで精一杯だった。「エンパワーメント事業」については、「まち歩き交流会」において一部外国人スタッフの認識不足から、地元参加者への呼びかけが疎かとなり地元参加者が少ない結果となった。事業の目的を何度も確認し合う重要性に気付いた。			この1年間の活動を通じて		イベントへの地元参加者105名と企画運営に参画できる支援者9名による事業運営の強化	を達成しました。
						■受益者の具体的な変化（自由記入）			
						小学校に入学した新1年生の保護者から、元気に登校しているという声が寄せられた。事業とは別に保護者同士でサポートし合っている場面が見られた。また、次回開催を待ち望む声も多く聞かれた。(とりわけハラル関連) 団体として、外国人スタッフのみならず日本人スタッフも主体的にやるべきことを考え、意見を述べる場面が増えた。			